

高等教育は変化の時期を迎えています。その中でも「学修成果の可視化に基づく内部質保証の実質化」「第4期認証評価サイクル」「設置基準や設置審の厳格化」、そして、「改正私立学校法」は、IRをますます重責に導く可能性があり、IRを導入すれば良かった時代から、IRの活用方法の成否が、大学の持続可能性に影響を与える時代となってきました。IRの”基本”にも変化が求められています。本研修は、現代的なIRの役割と業務、課題を、高等教育のトレンドの中で正しく位置付け、講義と併せ、簡易的なワークショップも取り入れながら、全ての大学職員にとって現代的な大学マネジメントのあり方に関する考え方を深められる研修です。

研修の目的

- 「教育DX」や「データ駆動型教育」等はIRと密接な関係にあるが、ChatGPTを挙げるまでもなくAI等の新技術も「知らない」「使えない」では済まされない時代となっている。これらIRに関連する技術的なキーワードの基礎知識と課題を考える。
- 「学修成果の可視化に基づく内部質保証の実質化」「第4期認証評価サイクル」「設置基準や設置審の厳格化」「改正私立学校法」等の高等教育環境の重要な潮流を理解し、IRとの関係を整理する。
- IRを正しく活用できないことが生むリスクを理解する。
- IRは大学マネジメントの1つのツールに過ぎず、最も重要なことは各大学のマネジメントスタイルの確立と、その中でどのようなデータをどのように用いるのか、その検討や議論であることを理解する。
- 実際のデータ分析事例とその活用事例を知り、自学にとって何のために、どのようなデータのどのような分析が必要なのかを深く考える。

研修の構成（例）

所要時間 90分～120分

1 IRの新たな基本の検討（30分）

- DX、AI等の新技術が意味するもの ～欧州のGDPRはどのような哲学に基づき、何を問題としているのか～
- 高等教育のトレンドとIR ～学修成果の可視化に基づく内部質保証の実質化,第4期認証評価サイクル,設置基準や設置審の厳格化,改正私立学校法～

2 IRの新たな基本の理解

- 米国IRの沿革と日本との最も大きな差異
- IRの定義・目的・役割・機能・IRレポートの種類

3 IRの目的と分析事例

- IRデータの分析とストーリー ～分析しないデータの価値は低い～/いかに人を動かすストーリーを紡ぐのか

4 ワークショップ

- 制約条件下でIRの理念を確立するために